

児童館における子育て支援活動に関する調査

―事業の内容と問題点についての記述回答分析―

母子保健研究部 齋藤幸子・高野 陽

要 約

児童館における乳幼児を対象とした子育て支援事業について、記述回答を分析した。70カ所の施設から210件の事業内容が寄せられ、主な事業は2つに分類された。一つは、親と子が集い、親子のふれ合い・親同士のふれあい交流・情報交換の場を提供する活動であり、2つ目は、乳幼児を含むあらゆる世代の地域住民の交流である。前者は、さらに二分され、親のリフレッシュを目的としたものと、親子の育ちを目的としたものであった。

問題点としては、親の意識に、児童館活動を一般の幼児教室や塾と混同している、自己中心的、責任放棄などがあげられ、育児負担の軽減のみでは無い「親育ち」の事業の必要性が明らかとなった。

利用者が少ない、他の施設の育児支援事業との競合など運営上の問題については、他の施設・機関との連携が不可欠である。特別なケアが必要な場合など個別な問題は、母子保健領域等との連携が有効と考えられた。地域内の全ての子育て家庭を視野に入れ、各専門機関との連携のもと、児童館は地域の育児支援施設として重要な役割を担うことが期待できる。

キーワード：育児支援サービス、児童館、育児講座、連携

A Survey on Child-rearing Support Service at Children's Centers : Analysis of Open Format Questions

Sachiko SAITO, Akira TAKANO

Abstract : Child-rearing support service at children's centers was surveyed with open format questions. 210 services from 70 children's centers were gathered and analyzed.

The services were classified into two subjects. The first one is an activity that offers meeting places for parents and children, where parents can exchange their information with each other. The second one is an interchange event for local residents of all generations including babies. In addition the former was classified into two, a refreshing activity for parents, and a child-rearing class.

The problems were as follows: some parents mistook the children's center activity for a general infants class or a cram school. Some parents abandoned their guardian responsibility and some were selfish. Besides the refreshing activities to reduce their child-rearing load, the child-rearing parents class is necessary to improve their parental abilities.

The other problems were the fewer users, and the conflicts among facilities that offer the same kind of child-rearing support services. People who need special care don't participate in these activities. Recognition of local conditions and cooperation with other facilities and organizations, especially with maternal and child health administrations, is indispensable to support these families. Putting all child-rearing families in view, children's centers are expected to perform key roles in every community.

Keywords : Child-rearing Support Service, Children's Center, Child-rearing Parents Class, Cooperation

I. 研究目的

近年、児童館は乳幼児の親を対象とした子育て支援という新たな役割を担って変化しつつある。さらに平成16年度「子ども・子育て応援プラン」の4つの重点課題においては、「中・高校生が乳幼児とふれあう機会を提供」、「老若男女の地域住民が子育て支援活動に主体的に関わるようにし、多世代の交流を促進するため、(中略)各種子育てに関わる行事等を開催する」など、地域全体のあらゆる年齢の住民を巻き込んだ育児支援事業を展開していく事が期待されている。

すでにこのような取り組みは、多くの児童館で実施されており、さまざまな発想で、事業を展開しているところが見られる²⁾。その実態を知り、児童館活動から見た地域の子育て支援について考察する目的で、児童館で実施している子育て支援事業の内容と実施上の問題点を分析した。

II. 研究方法

全国の児童館を対象とした質問紙調査より³⁾、児童館における子育て支援事業についての記述回答を分類整理した。設問は、事業名とその具体的内容、対象者、効果、問題点などであった。

III. 結果

70施設から述べ210件の事業についての回答があった。一部に、子育て支援事業であるのか従来からの児童館事業であるのか位置づけが不明の事業があったが、記載のあったものはすべて含めてカウントした。

1. 事業の対象および参加者

210件中、事業の対象者としてあげられたのは、乳幼児78.1%、母親73.3%、父親20.0%、一般の小学生20.0%、学童保育・放課後保育の児童17.1%、中学生13.3%、高校生6.7%、その他祖父母などが合わせて8.6%であった(表1)。すなわち、乳幼児を対象としていない事業も含まれており、従来からの児童館活動や学童保育も子育て支援として位置づけられたものと思われる。

民生委員と一般の大人という記載があったが、事業の対象というよりは、支援者としての参加といえるだろう。支援者側の参加者としては、事業の具体的内容の記述の中で、子育てアドバイザー、子育ての先輩経験者、保健師、栄養士、保育士などもあげられた。

2. 事業内容

事業内容の分類について、表2には内容別件数を、表3には、事業の具体的内容をあげた。1「親子のふれ合い・

表1. 児童館における子育て支援事業の対象者

| 事業の対象 | 件数 | % |
|------------|-----|-------|
| 乳幼児 | 164 | 78.1 |
| 母親 | 154 | 73.3 |
| 父親 | 42 | 20.0 |
| 小学生 | 46 | 21.9 |
| 学童保育/放課後保育 | 36 | 17.1 |
| 中学生 | 28 | 13.3 |
| 高校生 | 14 | 6.7 |
| 祖父母 | 6 | 2.9 |
| 場合によっては親も | 4 | 1.9 |
| 保育所園児・幼稚園児 | 3 | 1.4 |
| 一般の大人 | 2 | 1.0 |
| 民生委員など | 1 | 0.5 |
| その他(内容不明) | 2 | 1.0 |
| 件数合計 | 502 | 239.0 |
| 回答者合計 | 210 | 100.0 |

表2. 内容別事業数

| 分類 | 事業内容 | 件数 |
|----|------------------|-----|
| 1 | 親子のふれ合い・親同士の情報交換 | 80 |
| 2 | 1+育児相談 | 5 |
| 3 | 親子教室 | 24 |
| 4 | 乳幼児対象の教室・読み聞かせ | 8 |
| 5 | 母親対象の教室・講座 | 8 |
| 6 | 父親対象 | 3 |
| 7 | イベント | 15 |
| 8 | 移動児童館 | 5 |
| 9 | 自主運営・自主サークル支援 | 9 |
| 10 | 保育所と合同行事・体験入園 | 3 |
| 11 | 相談・計測 | 6 |
| 12 | 子ども縦割り交流、乳幼児～高校生 | 6 |
| 13 | 小中学生対象行事・教室・学童保育 | 35 |
| 14 | タイトルのみ、内容不明 | 3 |
| | | 210 |

親同士の情報交換」80件は殆ど同じ内容なので、代表的な1例の記述内容を表3にあげた。13「小・中・高校生対象行事・教室・学童保育」35件は乳幼児を対象としていないので内容の詳細は割愛した。その他は具体的内容を原文の意味を損なわない程度に簡略化して掲載した。分類番号1には、「乳幼児と親が集い、遊びなどを通じて、親子のふれあいおよび他の親子とのふれあい、親同士の情報交換を目的」としている事業を含め(80件)、親子遊びや親子体操などのみで他の親子とのふれあいについての記述のないものは、3「親子教室」に分類した(24件)。分類番号2には、1のような親子の集いに「専門職やアドバイザーなどによる育児相談が加わっている事業」で5件であった。4、5、6、は対象がそれぞれ、乳幼児、母親、父親となっており、対象によって目的が絞られた内容とな

っている。4乳幼児を対象とした事業といっても、親が同伴するので、1の集い・交流と類似した内容になることは想像される。5母親対象事業の内容は2通りあり、育児講座など直接指導によって育児力を高めることを目的とした内容と、育児から離れ気分転換を目的とした内容が含まれる。同様の事業で父親向けは3件と少なかった。

7のイベント、12の縦割り交流などは、乳幼児から高校生、さらに大人も加わり、異年齢・異世代の地域交流の場となっている。8の移動児童館は乳幼児を対象としており、地域に出向く積極的な子育て支援と位置づけられよう。

9自主サークルは、実施内容や目的は1や2と同じ触れ合い交流と考えられるが、親が主体的に取り組む点が異なる。10は保育所との連携の例である。11は身体計測などをきっかけとして児童館に出向いてもらい、相談や交流につなげているものと考えられる。13は小学生以上を対象とした事業であった。13が子育て支援としてあげられたのは、学童保育が仕事と子育ての両立支援であることや、子どもの健全育成事業自体が子育て支援という捉え方からであろう。

3. 効果と問題点について

育児支援事業の効果と問題点については、設問箇所以外にも記載が認められたため、すべての記述回答から、効果と問題点に関する記述を抽出し、分類整理した。

表4に示したように、親に対する効果としては、4項目に整理された。1.集いの場・交流の場、2.悩み事を話し合ったり、相談したりする、3.情報収集になる、4.虐待などの予防、である。

事業としての効果については、「地域内での交流になる、児童館事業を知ってもらえる」という地域の活性化に繋がる見方と、「隣の町に育児支援センターがあるので、その補助的役割」と位置づけたり、「利用者にとって選択肢が増えてよい」としたり、他の施設の実施している同事業との関連から見方があった。

問題点・困難点については表5に示した。まず参加者の問題であるが、親の意識として、「児童館を幼児教室や塾と混同している」、「自己中心的で親としての責任を放棄している」との指摘があり、「親への指導がむずかしい」という記述もあった。

地域内で事業に「参加しない親子」の問題もあげられた。利用促進の方法を講じる必要があるが「広報活動の難しさ」があげられた。参加しない親子になんらかの問題を持つ場合には、児童館だけで対処するのではなく、専門的対応や関係機関と連携が必要となろうが、「ネットワークづくりが緊急に必要」などこれら連携が十分でないことが問題点としてあがっていた。

子どもの減少による事業展開の難しさもあげられた。地域によっては、ほとんどの子どもが保育所に行っている、などニーズが少ないことを伺わせた。また、いろいろな機

関で同じような事業をやっている、「利用者が内容を選んでいる」との指摘もあった。「行事への興味がうすれている」こともあり、回答者自身「広い視野での勉強が必要」としている。

物理的な問題としては、遊具の保管場所や車で来館する親子のための駐車場が不足しており、人員と予算の不足もあげられた。

IV. 考察

児童館における乳幼児を対象とした子育て支援の事業内容とその効果・問題点についての回答を分析し、今後の方向性を検討した。児童館活動がもともと子どもの遊びを介した健全育成を図る事を目的とした子育て支援事業であるとの捉え方をすれば、すべての児童館事業が調査対象となるが、本研究では、「乳幼児を育てている親への直接支援」という意味での子育て支援について明らかにすることを目指した。事業内容は、大きく2つに分けることができた。すなわち、「乳幼児とその親を対象とした子育て支援」と、「乳幼児を含めた多世代の地域交流」である。また、前者は「親のリフレッシュ目的」とするものと「親の育ち」を目指すものがあつた。これらの事業は効果が大きいとされる反面、問題点も少なくなかった。子育て支援事業の効果については、「とても大きい」が56.5%を占め、一方「問題点がある」は44.9%であった³⁾。児童館活動から見た地域における子育て支援のあり方について考察する。

1. 参加者の意識と子育て支援の内容

ごく一部の親である可能性もあるが、支援活動を一般の幼児教室や塾の様に考えたり、自己中心的で、やってもらって当たり前という態度があり、児童館側に戸惑いが認められた。これは、親子や親同士のふれあい交流を目的に掲げていない幼児の体操教室や、一時保育付きで、母親のリフレッシュを目的とした趣味の講座などがあるためと想像される。また、「親としての責任放棄」というのは、親子の集いなどの場で、親同士の会話に夢中で、子どもを放ったらかしという事態も想像できる。活動目的をはっきりと持った上で、事業が実施されなければ、子育て支援の事業としての効果は半減するであろう。すなわち、保育やリフレッシュという「負担の大きい育児から一時的に解放する」ことを目的とするのであれば、上記のような意識をもつ親が出現することは避けられないと考えられる。「自己中心的な親を成熟へ向けて支援する」という目的を持つのであれば、子ども・子育て応援プラン¹⁾に示されているように「子どもの育ちに応じた多様な子育て講座や親子教室を実施する事により、安心して子育てに取り組めるような親子の育ちの場を提供する」ことを、事業目的として明確に位置づける事が肝心であろう。

「親の育ち」を支援する方策の一つとしては、親の自主的な運営によるサークル活動があげられる。「親の育ち」の場を提供するひとつの形であるが、大人のグループ活動への支援という技量が必要とされ、児童厚生員として備えている集団援助技術が活かされるであろう。児童館が地域においてあらゆる年代の住民を巻き込んだ子育て支援活動を推進していく上でも、益々重要な活動であると思われる。

2. 事業の活性化について

乳幼児とその親の利用が少ないという問題について取り上げたい。これは全国的な問題というより、地域の特性による問題と考えられる。第一に考えられる要因は、少子化によって地域の乳幼児の数が減っていることであり、第二には、共働き世帯が多くなり、乳幼児が平日は保育所で過ごしているということ、第三には、事業内容が興味を持たれないなど、地域の子育て支援ニーズと一致していないこと。第四は、広報の仕方に問題があり、ニーズがあるにもかかわらず、利用されないこと。第五に、保育所や育児支援センターなどの同種の事業と競合していること、などが今回の分析結果から浮上した。

第一と第二にあげた、対象子ども数や家庭数が少ないという事情は、事業を継続する必要がないという理由にはならない。つまり、少ないからこそ支援が必要な側面もあり、地域に生活する家庭の状況に即した形に検討し直す必要がある。第三、第四についても同様である。子育て支援を必要とする家庭があるにも関わらず、利用されない場合は、広報の仕方を含めその原因を究明し、地域のニーズに即した計画を練り直すことである。施設側で利用者が来所するのを待っているだけではなく、「移動児童館」「保育所への体験入園」等など、児童館から地域へと出て行く活動は、地域における児童館のあり方を考える上で、新しい展開を期待できるのではないだろうか。

第五番目の問題には賛否があった。地域内あるいは近隣の地域に同種の事業が増えた事は「利用者が事業内容を選べてよい」という意見と、「利用者が選んでいることが問題」とする意見である。後者の意とすることが定かではないが、地域内において施設間の競合が起こっていたり、施設と利用者との関係がうまくいっていないかということが考えられよう。地域の育児支援体制を総合的に考え、調整する役割を、どこが担うのが問題である。その核となる機関や施設は児童館に限らず、その地域で最も適したところが請け負えばよいであろう。

競合により事業内容の向上が期待できるが、近隣の地域との合同事業とする可能性も追究してもよいのではないか。近隣の地域の「行事への関心が薄れている」という記述がある一方、「地域ぐるみの交流会で、児童館活動を知ってもらえた」というケースもあり、回答者自身が「勉強が必要」と記述していたように、それぞれの地域の状況に

合わせた創意工夫が事業の活性化・地域の活性化に繋がるものと思われる。

3. 他機関との連携の必要性

上記以外に問題点としてあげられたのは、「参加しない親子」と「問題をもつ家庭」への対応などであった。「参加しない親子」については、いろいろな事例が考えられるが、保健部門との連携をとり、家庭訪問がなされているか、乳幼児健診は受診しているか、などの情報を共有する事での確な援助計画を作る事が出来るものと思われる。

また、「親の指導」「特別なケアが必要な場合」などが困難点としてあがっており、他の専門機関の連携・協力が必要な部分である。

以上のように、児童館が子育て支援事業を行う中で遭遇するさまざまな問題に適切に対処するためには、保健・福祉・教育などにかかわる各種機関や専門職と連携することが必須である。その場合、前項でも述べたように核となって連絡・調整する機関・施設が必要である。また、45%が事業を実施していく上で問題点・困難点を感じている事から、スーパーバイズの必要性も感じられる。これらの課題を総合し、地域内のすべての家庭への支援を地域ぐるみで充実されていくために、児童館は重要な役割を担う事が期待されている。

V. 結論

子育て支援事業の目的は、親のリフレッシュであるのか、親と子の育ちを支援するものであるか、明確にする必要がある。ふれあい交流を目的とした親子の集いの場は、ある程度の評価を得て実績を築いているが、今後は、「子ども・子育て応援プラン」の理念に基づき、一歩前進した「親と子の育ちの場」を提供する事を目指すべきである。子育て支援が単なる一時的な育児負担の軽減で終わらないことの再認識を促したい。

地域内に子育て支援施設が増え、利用者が内容で選べるようなケースがでてきている。それはそれで利点ではあるが、競合する部分の調整が必要な場合も考えられ、施設間による検討や地域内の核となる機関による調整が望まれよう。

児童館が、来館する親子のみを受益者として扱う時代から、あらゆる住民を支援対象として視野に入れる時代になり、児童厚生員のもつ援助技術を活かした活動が期待される。しかし、問題をもつ家庭への支援など、専門的ケアが必要な場合には困難を感じており、他機関との連携の必要性が言われながらも、まだ不十分なことが認められた。乳幼児を対象とした事業においては、母子保健部門との連携が不可欠であり、すべての子育て家庭を対象に適切な支援ができるよう、日頃からの地域内の連携が進む事が望まれる。

文献：

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局「少子化社会対策大綱に基づく重点施策の具体的実施計画について」(子ども・子育て応援プラン) 平成16年12月
- 2) 厚生労働大臣官房統計情報部社会統計課, 平成13年地域児童福祉事業等調査の概況-放課後児童クラブ・児童館-, 平成14年11月
- 3) 高野陽、齋藤幸子、他. 子育て支援を目標とした地域母子保健活動の質的検討に関する研究、日本子ども家庭総合研究所紀要第43集. 2007

表3. 事業の内容と対象(全210件)

| 事業内容 | | 1一般の乳幼児 2母親 3父親 4一般の小学生 5中学生 6学童保育の児童 7放課後保育の児童 8高校生 |
|--------------------------------|--|---|
| 1 親子のふれ合い・親同士の情報交換(80件) | | |
| 例 | 「親子クラブ」1歳半から就園前のお子さんとお母さんが遊びを通して、親子のふれあいを深め、子ども同士、親同士の交流を深めることを目的に開催している | 123特別行事は8他の参加あり |
| 2 集いと育児相談・育児講座(5件) | | |
| 1 | 子育てアドバイザーによる育児の相談(フリースペース) | 12 |
| 2 | 健康相談会クッキングなど | 12 |
| 3 | 育児相談(フリースペース) | 12 |
| 4 | 子育て先輩経験者によるサポート(食育や絵本よみきかせ相談) | 12 |
| 5 | 保育講座20分位、保健師や栄養師、保育士などによる話をきく。 | 12 |
| 3 親子教室(24件) | | |
| 1 | 親子リズム体操 | 123458 |
| 2 | 親子リズム体操 | 123458 |
| 3 | 親子体操教室 | 12 |
| 4 | 親子体育教室 | 124 |
| 5 | 親子体操 | 123 |
| 6 | 親子リトミック教室 | 12 |
| 7 | ベビーリトミック、3B体操 | 12 |
| 8 | 季節の遊びやリトミック | 12 |
| 9 | リズム遊びや季節のイベント | 1235 |
| 10 | リズム遊びや工作 | 123 |
| 11 | 体操・絵本の読み聞かせ | 無記入 |
| 12 | 主に遊具を使って体操 | 123 |
| 13 | お話し遊び、リズム体操、工作等 | 12 |
| 14 | 親子触れ合い遊び | 126 |
| 15 | 親子遊び(自由来館) | 12 |
| 16 | 季節に合った遊び | 12 |
| 17 | 発達に応じた遊び | 123 |
| 18 | 折り紙教室 | 124 |
| 19 | 親子調理教室 | 12 |
| 20 | 行事をとおして、由来や意義を知る。 | 1 |
| 21 | 親子教室 | 123 |
| 22 | 親子教室 | 12 |
| 23 | 親子教室 | 123 |
| 24 | 親子分かれて、子(工作・歌・季節行事など)、親(手芸・奉仕作業、スポーツなど) | 12 |
| 4 乳幼児対象の教室・読み聞かせ(8件) | | |
| 1 | 有資格者が体育遊びや楽器遊びなどをする。 | 12 |
| 2 | 乳幼児学級 | 1 |
| 3 | 読み聞かせ | 12 |
| 4 | 「交通安全教室」町内の幼稚園児、保育所の児童に対して、交通マナー | 幼稚園児・保育所児 |
| 5 | 文化創作活動、玄関の飾り作り | 14 |
| 6 | 絵本の読み聞かせ会(年1回)折り紙教室(月1回) | 1 |
| 7 | 体操、手遊び、絵本や紙芝居の読み聞かせ | 12 |
| 8 | おはなし広場(英語絵本の読みきかせ) | 123 |
| 5 母親対象の教室・講座(8件) | | |
| 1 | 子育てに関する様々な講座・講演会 | 12 |
| 2 | 母親を対象に子育てに関する内容の講座や趣味の講座。一時保育あり | 2 |
| 3 | 子育てセミナー 食育・医学講座など | 12 |
| 4 | 子育て支援講座 | 無記入 |
| 5 | 陶芸教室、子育て中の母親に子どもから離れて自分の時間を楽しんでもらう | 2 |
| 6 | 母親対象家庭教育研修 | 2 |
| 7 | 子育てセミナー | 23 |
| 8 | 親子のふれあいあそびや講話を通して子育ての楽しさを感じられるようにす | 123458 |

| | | |
|----|---|------------------|
| 6 | 父親対象(3件) | |
| 1 | 工作や体操など父親と子のスキンシップを図り父親の育児の参加を促す | 12 |
| 2 | パパの広場 | 123 |
| 3 | パパと遊ぼう | 123 |
| 7 | イベント(15件) | |
| 1 | ゲーム大会 | 1245 |
| 2 | 森の小さな映画館 | 124 |
| 3 | おはなしぶんこ | 1245 |
| 4 | 「地域子ども教室事業」植物採集会、節分豆まき会、子どももちつき会 | 147 |
| 5 | 季節に応じた工作物の製作等。自然観察、天体観望会、遠足。 | 1234 |
| 6 | ちびっこ運動会 | 123 |
| 7 | 季節行事、遠足、映画会、料理教室、工作教室、クリスマス、ゲーム大会など | 145乳幼児は親同伴 |
| 8 | 人形劇の公演 | 1234578 |
| 9 | ちびっこクリスマス会 | 12 |
| 10 | ファミリーデー | 123 |
| 11 | 児童館でのお楽しみ会(各季節の行事など) | 12345 |
| 12 | 児童館まつり。プラ板、プレスレット作り、ヨーヨー、飲食物などの販売 | 1234578 |
| 13 | こどもまつり(集い、イベントを行なう中でいろいろな人との交流) | 12345678区民、民生委員他 |
| 14 | 教室 製作・上映会など | |
| 15 | おもちゃ図書館 | 12346 |
| 8 | 移動児童館(9件) | |
| 1 | 幼稚園や保育園にでかけ、人形劇やゲームを通して児童館に親しみをもってもらう | 12 |
| 2 | 巡回児童館 | 123 |
| 3 | 主に児童館のない地域に定期的に出向き、遊びの指導や、子育て相談を行う。 | 123 |
| 4 | 開放日に遊びに来れない親子のため6ヶ所場所を変えて出前に行く。 | 12祖母 |
| 5 | 移動児童館 | 123458 |
| 9 | 自主運営・自主サークル支援(9件) | |
| 1 | 親子遊び(自主サークル)ひまわり園 | 12 |
| 2 | 幼児サークル | 1 |
| 3 | 「母親の自主運営による体操・手あそび・よみかかせ等の日常活動やえんにち・リトミックなどの行事を通しふれ合い&情報交換 | 123 |
| 4 | 子育てサークル支援～6サークルに年2回出向いて遊びの提供をする。子育てサークル代表者会議(年2回)情報交換。子育てサークル代表者研修 | 12祖母 |
| 5 | 育児サークルの利用6団体 | 無記入 |
| 6 | サークルの自主運営を基本として、自主性を尊重 | 12 |
| 7 | サークルの自主運営を基本として、自主性を尊重 | 12 |
| 8 | サークルの自主運営を基本として、自主性を尊重 | 12 |
| 9 | サークルの自主運営を基本として、自主性を尊重 | 12 |
| 10 | 保育所と合同行事・体験入園(3件) | |
| 1 | 家庭で保育されている幼児を対象に親子で参加してもらい、保育所と合同で、工作・運動会、クッキング・季節行事など色々な分野の活動を取り入れる。 | 12保育所園児 |
| 2 | 保育園や幼稚園に通っていない乳幼児親子を対象に、1日体験入園 | 12 |
| 3 | 町内3つの保育所の子ども達とのふれ合いをもつ。保育所の行事である夏まつり参加。 | |
| 11 | 相談・計測(6件) | |
| 1 | 元気子育て支援センター事業 児童の保護者を主な対象に子育て相談を行う | 123 |
| 2 | 「親子けんこう教室」栄養相談・母乳相談・発育・療育相談など。 | 12 |
| 3 | 赤ちゃん健康・相談 | 12 |
| 4 | 相談業務 | 無記入 |
| 5 | 「健康教室・育児相談」乳幼児と親を対象に身体計測や育児相談、健康についての話し | 12 |
| 6 | のびのび計測会 | 12 |
| 12 | 子ども縦割り交流、乳幼児～高校生(6件) | |
| 1 | 「児童館事業」学童保育以外の子が自由に来館したり、行事に参加する。 | 1234 |
| 2 | 放課後開放教室 幼・小・中の子ども達が一同に自由に大きな部屋で集う。 | 145 |
| 3 | 赤ちゃん交流 | 125 |
| 4 | 「中高生と赤ちゃんとのふれあい広場」参加されるお母さんに対しては情報提供 | 1258 |
| 5 | 「一輪車教室」一輪車の練習と技の向上、子ども達同士の交流 | 145 |
| 6 | 乳幼児と親、小学生のふれ合い活動。親同士の情報交換。 | 123 |
| 13 | 小学生、中学生、高校生対象の行事・教室・学童保育(35件) | |
| 14 | タイトルのみ、内容不明(3件) | |

表4. 効果について

| 大項目 | 通し番号 | 小項目 | 件数 |
|---------|------|----------------------|----|
| 1 親にとって | 1 | 集いの場・交流の場として | 12 |
| | 2 | 悩み事・相談 | 4 |
| | 3 | 情報収集 | 2 |
| | 4 | 虐待などの問題の予防的効果 | 2 |
| 2 事業として | 5 | 地域の交流・児童館活動の浸透 | 3 |
| | 6 | 支援センターの補助的な役割 | 1 |
| | 7 | 子育て関連事業増え、選択枝も増えたことは | 1 |

表5. 問題点／困難点／改善が必要な点

| 大項目 | 通し番号 | 小項目 | 件数 |
|--------------|------|---|----|
| 1 参加者（親）の意識 | 1 | 考え方が教室的・塾的な感じ | 1 |
| | 2 | 自己中心 | 1 |
| | 3 | やってもらって当然 | 1 |
| | 4 | 親の責任放棄、あたりまえの意識 | 1 |
| | 5 | 子供中心主義 | 1 |
| 2 親への指導 | 6 | 親への指導が難しい。 | 1 |
| 3 参加しない親子の問題 | 7 | 援助、支援の方法 | 3 |
| | 8 | 参加しない親子に問題がある | 1 |
| | 9 | どのように支援事業を浸透させていく | 1 |
| | 10 | 地域内全員の親子の参加はむずかしい | 1 |
| 4 専門的対応の必要性 | 11 | 心のケアや子どもの発達への対応 | 2 |
| 5 連携 | 12 | 保健・医療・福祉の連携方策について | 1 |
| | 13 | 各機関、施設との連絡会。いろいろな機関の方と連携・協力し合い合同で子育て支援事業を開催できるようになるとよい。 | 1 |
| | 14 | 他施設との交わり | 1 |
| | 15 | いろいろな事業の担当の横のつながりがあまりない | 1 |
| | 16 | ネットワークづくりが、今、緊急に必要 | 1 |
| 6 子ども減少 | 17 | 活動が難しくなっている | 1 |
| | 18 | ほとんどが保育園に通っている | 1 |
| | 19 | 利用者が少ない | 4 |
| 7 利用促進の方法 | 20 | 事業の広報活動のむずかしさ | 3 |
| 8 支援のあり方 | 21 | 一時保育か、直接支援か目的がはっきりしない | 1 |
| | 22 | 個人差、生活環境、社会情勢等、学校教育と切り離しては考えられない | 1 |
| 9 事業展開 | 23 | いろいろな機関で同じような事業。利用者が内容を選んでいる。 | 1 |
| | 24 | 行事への期待がうすれる。広い視野で勉強が必要 | 1 |
| 10 施設・人材・予算 | 25 | 狭い。遊具の保管場所に困る | 3 |
| | 26 | 駐車場 | 2 |
| | 27 | 人手不足 | 2 |
| | 28 | 予算足りない | 2 |